

「練習船」活用 チーム高専、地域に寄り添う支援



練習船内でシャワー提供(写真提供:都城高専)



支援活動について説明する田村都城高専校長④

支援活動について説明する田村都城高専校長④
いきたい」と語った。

今回、国立高等専門学校機構は「チーム高専」を結成し、災害支援活動を展開した。商船高専(大島商船高専、弓削商船高専、広島商船高専)が保有する練習船を使用して、八代港内で給水・シャワーを提供。練習船スタッフ以外に、九州

地区の高専教職員も参加して地域に寄り添った支援活動が行われた。
支援活動は8月14日から22日にかけて行われ、高専機構によると、シャワー利用が延べ302人、給水利用が延べ133件、給水タンク車への給水が延べ7台

感謝状授与式後には、大臣室で意見交換が行われ、都城高専の田村隆弘校長と広島商船高専の藪上敦弘教授(広島丸船長)が支援活動について報告した。田村校長は「高専として初めての経験で、多くの知見が得られた」と手応えを語り、藪上氏は「全国高専のネットワークを活用して災害支援を行った。災害が多い国なので、今回の知見を生かしたい」と語った。



感謝状を掲げる各国立大学法人から派遣された判定士ら



感謝状を授与される広島商船高専の藪上氏④
語った。



松本文科大臣

提供を実施した。

国における生活の再建や学びの確保のため、全国の国立大学や高専、教育委員会が教職員等の派遣を行ってきた。国立大学は被災建築物の応急危険度判定に従事する判定士(文教施設応急危険度判定士)を派遣。岩手県や東京都、兵庫県などの教育委員会からは教職員から成る「学校支援チーム」が派遣された。また、国立高等専門学校機構は商船高専が保有する練習船により、八代港(熊本県八代市)で給水・シャワー

熊本地震の災害支援活動に従事

松本文科大臣、国立大学や教育関係者に感謝状授与

令和8年熊本地震の災害支援活動を行った関係者に対し9月11日、松本洋平文部科学大臣から感謝状が授与された。

7月28日の熊本地震発生直後から、被災地

9月11日、省内で感謝状授与式を執り行った。松本大臣は「被災者の生活を支えるとともに、地域に安心を届ける重要な役割を果たしていただいたことに深く敬意を表します。皆さまの高い使命感と献身的なご尽力に対し、国民を代表して心より感謝申し上げます」と